

第 20 回旭川流域連絡協議会（幹事会）議事録

日 時：平成 18 年 5 月 29 日（月）14:00～16:00

場 所：美咲町林業センター 研修室

参加者：岡山市（本庁、御津支所） 瀬戸町、赤磐市（本庁）、吉備中央町、建部町、久米南町、美咲町（本庁、旭総合支所） 真庭市（本庁、北房支所、落合支所、勝山支所、湯原支所、美甘支所、中和支所、川上支所） 新庄村、鏡野町（本庁、富振興センター） 岡山県 土木部 河川課、岡山県 総務部 危機管理課、備前県民局（本庁、東備支局）、美作県民局（本庁、真庭支局） 国土交通省 岡山河川事務所

1. 開会挨拶

【岡山河川事務所 宮崎副所長】

沖縄・九州が梅雨入りしたという事で、また防災等大変忙しい時期が来ました。

今日は拡大幹事会という事で、防災系の方にもお集まり頂いておりますが、メンバーがかなり変わっております。

旭川流域連絡協議会とは、平成 11 年に国、県、市町村で旭川流域についての情報交換・共有を目的に設置して、今年で 7 年目、今回第 20 回目の開催です。

この旭川流域連絡協議会の中は、ここ 2,3 年前からの河川環境問題である、コイヘルペスの情報共有を図る為などの河川環境連絡部会と、平成 16 年水害等を受けて設置した、災害情報連絡部会という 2 つの部会も新たに設けている組織です。

各行政団体も合併等で、元々 23 市町村が 10 市町村と半分以下になりましたが、流域の住人は何ら変わって無いので、この旭川流域の安全・安心というものを従来どおり確保できるように、行政・県・市が手を携えて協力し、情報共有を図る目的でこの会があります。

今回、提案している中で、この協議会の環境部門で市民団体と連携して、全国ベースの水質調査の旭川一斉水質調査もありますし、防災関係にも平成 10 年の 10 号台風以降、この協議会で取り組むべき課題として、行政の勉強会も開いています。

今日はメンバーが変わっていますので、違う視点から色々ご意見を頂ければと思っています。

よろしく申し上げます。

2. 議事

【事務局】

協議会運営について説明

- ・ 規約、協議会体制
- ・ 平成 18 年度委員、幹事一覧
- ・ 平成 17 年度予算の精算及び平成 18 年度支出計画
- ・ 平成 18 年度協議会負担金について

【質疑・応答】

【備前県民局】

建設企画課長 建設部 参事に修正する。

【鏡野町】

産業部 削除する。

【美咲町】

中央総合支所 削除する。

旭総合支所 業務管理課長 産業建設課長へ修正する。

【事務局】

平成 18 年度活動計画について説明

AR-NET との連携事業の予定と協力をお願い

6 月 4 日の旭川流域一斉水質調査についての説明など

調査地点での支援をお願い

【質疑・応答】

なし

【事務局】

自主防災組織について

・今年度の活動方針について説明

・防災マップを作ろうについて説明

防災・減災フォーラム 2006 (7 月 2 日) の紹介

【質疑・応答】

なし

【事務局】

・5 月管内水防演習・12 月水防技術講習会についての説明

・洪水等ハザードマップの作成の推進等に関する行政評価・監視結果について説明

・洪水氾濫時における被害最小化策のあり方について説明

・洪水予報について説明

橋脚に水位表示をして、地域の方に確認して頂ける様に取り組んでいる

・旭川水系水利用協議会について説明

・「手づくり故郷賞」募集について説明

・関連新聞記事について説明

【岡山県】

防災情報ネットワーク高度化事業について情報提供

- ・ 災害に強い高度な防災ネットワーク基盤の構築
- ・ 県民と情報共有できる総合防災情報システムの構築

【質疑・応答】

【吉備中央町】

自主防災モデル地域の取り組みについて

今年の2月17日の幹事会や本会議において、現在3地区のモデル地域を18年度は1自治体に1モデル地区とし、残った7自治体全てにモデル地区を拡大していくという説明があった。

吉備中央町は、山間地で旭川本川から外れており、洪水や氾濫が起きる箇所は少ない。

平成16年の台風23号では、山崩れが発生し2,3軒が避難した事もあったが、高齢化や過疎が進んでおり家も点在している。

その様な状況でも、全ての市町村がモデル地区を作るという方針だったので、吉備中央町も地域に対し、無理をお願いしてモデル地区になって頂いた。

ところが、本日の資料ではモデル地区は全市町村ではなく、真庭市と吉備中央町だけになっている。他の地域や今後の展開はどうするのか？

また、吉備中央町では、岡山市の操明地区の様なマップは出来ないと思う。

【事務局】

その他の自治体にも、モデル地域になって頂くようお願いしたが、様々な事情等があるようで、なかなか提案して貰えなかったという事で、吉備中央町が言われるような状況になってしまった。

当面、提案して頂いた所はモデル地域として、流域連絡協議会として支援していく形で、少しでも自主防災会の活性化に繋げられる地域が、1つでも2つでも有れば良いと考えている。

当然、提案して頂いた所は、今後ヒアリング等進める予定であり、今回は提案しなかった自治体は、今後も追加のモデル地域を探して頂き、途中からでも結構なので、提案して頂きたい。

【事務局】

補足だが、以前より1自治体に1モデル地区とし、残った7自治体全てにモデル地区を拡大していく方針であり、今後もその予定である。

何故かと言えば、国、県、市町村が作るハザードマップでは、流域単位等の大きな範囲となる事から、自主防災組織や地区単位では取り残される様な格好になる為、出来るだけ流連として力を入れていきたい。

今回、2地区提案しているが、岡山市が1地区提案予定である。

流域連絡協議会は行政だけの情報交換だけで無く、流域の人が少しでも利便あるいは安

全・安心を確実に感じる組織にしたいと考えている。

岡山県は自主防災にしても、他県に比べて組織率が低いので、流域連絡協議会で支援を行うことで、少しでもいい自主防災組織が出来て、旭川流域で少々の大雨、あるいは土砂災害が有っても、人命が失われない流域でありたいと思っている。

追加モデル地域については、途中からでも結構なので、引き続き提案して頂きたい。

【吉備中央町】

県は自主防災組織に対する、大々的な支援はあるのか？

【岡山県】

県では自主防災組織の支援策があり、新しく自主防災組織が出来た場合には、防災資機材（例えば大きなスコップ、防災シート等）の整備、補助と言う名目で、市町村と県とで2分の1ずつ、100万円まで補助金の交付制度がある。

自主防災組織の方も、講演会とか研修会を開く時には、講師の方を県が防災講師として登録しており、講師を派遣する制度もある。

今年度から新規のみならず、既存の自主防災組織も活性化を図る為、同様に防災資機材、防災士を育成する名目で、市町村で事業を行う場合には2分の1補助という制度を設けている。その中には防災マップ、ハザードマップの作成も対象となる。

先ほど国土交通省が発言した様に、岡山県の自主防災組織率は、今年度44%で全国平均の64.5%に比べ、かなり下がっている。

確かに、岡山県は「晴れの国」で災害が少ない為、自主防災組織までは発展していない。町内会組織はかなりあるが、自主防災まで発展して欲しいと岡山県は考えており、自主防災組織率を高めるように、市町村の防災担当課とも相談しながら取り組んでいる。

折角、モデル地域を流域連絡協議会が支援するので、是非、取り組んでもらい、防災資機材等は県の補助を使って、総合的に自主防災組織を育成していく事に取り組んで貰いたい。

災害対策基本法では、自主防災組織の育成は、市町村の責務となっており、県も当然支援することが責務であるが、市町村も災害が起きた場合を想定し、積極的に取り組んで貰えればと考えている。

【岡山市】

防災情報ネットワーク高度化事業について、岡山市も下水道光ファイバーを埋設し、活用する構想を持っている。

県と接続し、情報提供及び交換を検討しているが、協議する場合の窓口は、危機管理課又は河川課のどちらか？

【岡山県】

危機管理課である。

【岡山河川事務所】

国交省でも自治体と光ファイバーの接続を、今後積極的に実施する予定だが、岡山県の場合は情報ハイウェイがあるため、情報ハイウェイを活用した方が良いのではないかと。

今日の資料には添付していないが、直轄区間の沿川自治体にはインターネットで CCTV カメラの画像提供を進めている。

【岡山河川事務所】

資料の 75 ページに、危険水位、計画高水位、警戒水位等の表示を整備しているとあるが、4,5 日前に岡山県と国交省の水位表示の色が、直轄区間と県区間で食い違っているのが判明した為、県の河川課と調整中である。

既に県はかなりの箇所を設置しているので、現在の表示を変える可能性がある。

【真庭市】

今回、初めて会議に参加したが、規約では、真庭市は各支局すべてこの幹事会の構成メンバーに入っているが、赤磐市は本庁だけがこの会議に出席している。

各支局が会議に参加して、各支局がばらばらに取り組んだら、市として一貫性なり統一性が無くなる。真庭市は、本日も建設部と危機管理の関係の担当者が本庁から来ており、窓口は 1 本の方が混乱が起これないのではないかと。

鏡野町は旧富村が入っており、美咲町も同様の形になっているが、各市町村窓口は一箇所の方が良いと思う。

【事務局】

窓口の 1 本化は幹事会だけでなく、災害情報協議会等も含めてか？

【真庭市】

初めて来たので他の会の事は判らないが、6 ページの構成を見ていると承諾しかねる。

【事務局】

元々が流域連絡協議会は、上・中・下流で各自治体ごとにブロック割りしていた。

真庭市や赤磐市については、赤磐市は 1 つにまとめて欲しいという希望が出た為、他の支局も有ったが、あえて 1 つとした。

合併前は 23 市町村が今は 10 市町村であり、支所等を削除していくと情報も伝わりにくい為、出来れば支局単位で残って貰いたいと協議した。

当初は赤磐市のように、1 本化したいと言う自治体もあった。窓口の 1 本化については、事務局である国と県が指示出来ないと思うので、また相談する事としたい。

【真庭市】

真庭市が、今後は窓口を 1 本化すると判断すれば良いのだな？

【事務局】

流連設立時の経緯が、旧市町村単位なので、各支局が残っている形となっている。その経緯を踏まえ、再考をお願いする。

【岡山河川事務所】

危機管理課へ質問。

県民への防災情報提供を、平成 19 年度から始めるとの事だが、気象情報、震度情報、雨量・水位・潮位情報、ダム情報、道路情報等と書いてあるが、防災提供のイメージは既に持っているのか？

【岡山県】

現在、検討中であるが、収集した情報を県民がそのまま見る事が出来る形を考えている。

例えば、現在の総合防災情報システムでは、気象情報、雨量、水位、潮位等は、サーバーの容量もあり、災害時の回線パンクを避ける為、パスワードが無いとアクセス出来ない形になっている。そのサーバー等システムを変更し、一般人もパソコンや携帯から見る事が出来る様、窓口を広げて情報を共有出来る形を考えている。

直接担当ではないので詳細については不明だが、今後、流域連絡協議会等で情報提供は行いたい。

【岡山河川事務所】

例えば、河川や道路等の情報を、現在は別々で見ているが 1 本化する等、具体的に考えているのか？

【岡山県】

現在、防災ナビで見える事が出来るものと、パスワードでアクセス制限しているものを、全て見る事が出来るようにする方針だと思う。

【岡山市】

先ほど、自主防災組織や防災マップの話が出たが、岡山市の取り組みも紹介する。

資料の 84 ページに防災マップの支援が有るが、岡山市の場合、独自に地域防災マップ作成支援事業費で予算を組んでいる。

市で作る自主防災組織が、自主的に防災マップを作る場合、防災マップを作っていく活動、地域の危ない所、逃げる場所とか地域の人と一緒に作り上げていく過程において、印刷費も含めて 5 万円の支援を行っている。

ただ、新聞記事にもあるが、平成 17 年度は利用が無かったのが現状で、平成 18 年度は当初予算 100 万円、20 団体分確保しており、現在 1 団体申し出て来ている状況である。

折角予算が有るので、しっかり利用して貰えればと思う。

岡山市の場合、篤志家より「地域活動に使って下さい」と寄付が有り、秋山基金という基金を組んで、その基金から予算を捻出しているという、特殊な事情から支援が出来る様

になっている。

旭川流域連絡協議会で素晴らしい防災マップが出来て、200部作っているとの事だが、今後増刷する場合には、27ページに支援の例が有るが、岡山市の資機材を削除して、「地域防災マップ作成支援事業費」に修正する様、お願いする。

【事務局】

それでは、第20回旭川流域連絡協議会 幹事会を終了させていただきます。